

## あとがき

今回はクリスト展で、“アンブレラ、日本と米国とのジョイントプロジェクト”に関するドローイング、コラージュ、ペインテッドフォト等十数点及び記録写真十数点を展示しご覧いただくものである。当画廊でのクリスト展はこの展覧会で第4回目を数える。

カタログのテキストは英米文学者でクリストについてかねがね深い関心をお持ちの野間勉<sup>やま けん</sup>さんに「クリストを求めて」と題するクリスト論を、またクリストファンでクリストとの付き合いが長く、クリストについて大変くわしいニューヨーク在住の柳正彦<sup>やなぎ まさひこ</sup>さんに「アンブレラ」をそれぞれご寄稿いただいた。お二人に厚く御礼申し上げます。またこの展覧会のためにポスターを作成したことを申し添える。

“アンブレラ”のプロジェクトについて、クリストは1987年7月、軽井沢の西武高輪美術館のクリスト展オープンの際、正式に発表した。その内容は、わが国の茨城県の常陸太田市、日立市の西部、里美村にまたがる山峡および米国西海岸ロスアンゼルス<sup>Los Angeles</sup>の近郊において、18～25kmの範囲に、それぞれ高さ6m直径8mの巨大な八角形のアンブレラ——色彩は日本はブルー、米国はイエロー——を点々と設置していく壮大なプロジェクトである。1990年10月の第2週から3週間にわたり実行される予定で、その後完全に撤去される。それに要する莫大な費用はすべてクリストが負担する。つまりその費用はクリストが自分のドローイング、コラージュ等<sup>collage</sup>を売った資金で賄われる。つまり彼の作品を購入した人々がスポンサーなのである。

1970年クリストは上野公園の全歩道を布で覆うことを計画したが、都庁の許可が降りず、結局東京都美術館の地下の床を布で覆うことで終わった。その時、私は布で覆われた階段に座り、その光景を不思議な気持ちで眺めていた記憶がある。あれから20年、本格的なクリストのプロジェクトがわが国で行われようとしているのはうれしいことである。カタログやポスターでご覧のようにすでにクリストは現地に赴き、プ

ロジェクト実現のための交渉を始めている。日・米同時プロジェクトという点が今回のクリストの仕事では特徴的なところでそれだけ困難さが増大していると言えよう。

西武美術館(池袋)では1月2日から2月16日まで、ロスチャイルド銀行のコレクションによるクリスト展を開催している。その内容は初期から現在に至るオブジェ、ドローイング、コラージュ、写真等によるクリストの全貌を示す大規模な展示で、クリストに関心をお持ちの方は必見の展覧会である。当画廊の「アンブレラ」展と併せご覧いただくことをおすすめする。

クリスト夫妻は西武美術館および当画廊のクリスト展のために来日の予定でスタジオ200ではクリストのレクチャーが予定されている(西武百貨店、池袋、1/15)。「アンブレラ」プロジェクトの実現のためには幾多の困難が予想されるが、ぜひともこの壮挙を完成させたいと願うとともに、クリスト夫妻のますますのご健勝を祈念するものである。

1987年12月7日

佐谷画廊、佐谷和彦